

近年、複数のウィットゲンシュタイン研究者が道徳的確定性 (moral certainty) という観念について議論を行っている。そこで問題となっているのは、我々の道徳的実践の基礎に特別な確定性を伴った道徳的コミットメントが存在していると考えられるかということである。報告者は Ohtani (2018)において、『確定性の問題』において我々の実践の基礎にあるとされている事柄は、何らかの経験命題や規則ではなく、不明瞭な物の見方という意味での「像 (Bild / picture)」であると考えられるべきだと論じた。本報告ではまず第一に、この解釈を道徳的確定性の観念に適用し、我々の道徳的実践の基礎にあるコミットメントを「像」として捉えることを提起する。そのうえで第二に、そこから得られる道徳的実践についての描像に基づき、道徳的原理の役割について検討し、道徳的個別主義と一般主義の論争に関して、ウィットゲンシュタイン的観点から評価を行う。

Ohtani, H. (2018). World-Pictures and Wittgensteinian certainty, *Metaphilosophy*, 49(1-2): 115-136